

# 光一中だより

## 教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校

校長 豊田 貴志

令和7年度 第10号

令和8年2月6日

## 「立春に考える、心の羅針盤」コンパス

校長 豊田 貴志

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、年が明けてからの時間はあっという間に過ぎていきます。まだまだ冬の寒さは厳しいものの、暦の上では立春を迎え、少しずつですが、春の足音が聞こえてくる季節となりました。

立春の前日といえば皆さんもよく知る節分です。節分では「鬼は外」というかけ声とともに豆まきをしますが、古来、鬼とは角や牙のある姿だけを指していたわけではありません。正体がはっきりしない恐怖、目に見えない不安、姿形のない病気、そして心の中にある弱さや迷い、そうした「形にならないもの」こそが、鬼として捉えられてきました。鬼の語源は「穢（おん）」、つまり人目から隠れ、見えず、正体の分からないものだとも言われています。



現代社会にも、私たちを惑わせる「鬼」が存在します。SNSで流れてくる噂話、出所のはっきりしないネット情報、発言の一部だけが切り取られ一人歩きをしている話、「みんなが言っているから」という同調圧力、さらにはAIが作り出すフェイク画像や動画。どれも一見もっともらしく見えますが、正体が分からないまま私たちの心を揺さぶる、まさに「鬼」のような存在です。

こうした現代の「鬼」に立ち向かうために大切なのが、「心の羅針盤（コンパス）」です。「その噂は本当だろうか」「“みんな”とは誰のことだろう」「この画像や動画は本物だろうか」と、一度立ち止まって考える力。それはAIや機械には任せきりにできない、私たち人間一人ひとりが持つ大切な力です。

羅針盤とは、迷わないための道しるべです。出所の分からない情報に惑わされないと、自分が直接感じ、考えたことを大切にすること、そして自分自身が誤った情報を発信する側にならないよう、ひと呼吸おいて考えること。日々の小さな行動の積み重ねが、「凡事徹底」として心の在り方を形づくっていきます。

年度のまとめに向かうこの2月、自分の心の中にある羅針盤が、どちらを指しているのかを見つめ直してみてください。正体の分からぬ不安や迷いに振り回されるのではなく、自分自身で考え、選び、進んでいける力を、学校生活の中で育んでいきましょう。

